

## (1) 学校経営の改革方針における今年度の重点取組についての評価結果

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
児童一人ひとりのニーズに応じた教育支援体制の確立	<p>○「子どもが生き生きと活動する授業づくり」をテーマに、計画的な研修を行い、専門性や授業力の向上を図ります。</p> <p>(取組状況の指標：学部研修(月1回)の開催。グループ研修(月1回)と全体講演会(年1回)は地域にも発信をする。)</p> <p>(達成状況の指標：「概ね満足」と回答した教職員の割合 80%以上)</p>	<p>○グループ研修は「福祉情報」「発達障がい」「食育」「途切れない支援」「健康&amp;体力づくり」「作る」「ポルトガル語」「iPadによる学習支援」「表現」の9テーマを設定し7回実施した。また、年間を通して各学部で授業の振り返りを行い、「子どもが生き生きと活動する授業づくり」につなげた。「振り返りをしたことで子どもが生き生きと活動する授業づくりができた」92%、「学部研修、グループ研修、全体講演会等が授業づくり及び専門性の向上につながっている」93%【達成】</p>	<p>○グループ研修は、職員が今必要とする課題についてテーマを設定し、外部からの参加者もあり、支援や授業にすぐに活かせる研修となった。引き続き授業づくりや専門性の向上のため、継続した取り組みを行っていく必要がある。子どもの発達段階を理解し、授業づくりや支援に活かせるように、小・中・高の職員の交流を進めていく必要がある。</p>
	<p>○小・中・高の途切れないキャリア教育に取り組むため、指導内容の充実と進路指導を進めます。</p> <p>(取組状況の指標：「将来の社会参加に必要な基本的な生活習慣」を視点とした教育実践(各学部)と系統的な社会体験学習・校内実習・現場実習等の実施)</p> <p>(達成状況の指標：「概ね満足」と回答した教職員の割合 80%以上)</p>	<p>○すべての学部で基本的な生活習慣の確立という同じ目標を設定し、それぞれの発達段階に応じて、具体的な取組を設定した。日常生活の中であいさつを意識させ、自らあいさつでき感謝の言葉を言える児童生徒が増えた。</p> <p>○小・中・高の途切れないキャリア教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学部</li> </ul> <p>年間を通じて社会体験学習(大型商業施設等の利用)や農業体験学習(田植えや稲刈り、花の種蒔き等、アグリ雇用推進事業との連携を含む)を実施した。(事業予定90%実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学部</li> </ul> <p>アグリ雇用推進事業と連携した農業体験学習(ジャガイモの収穫や農作物の販売体験)を行った。また、生徒の実態に応じて福祉サービス事業所体験と参観を行った。(事業予定90%実施)</p>	<p>○あいさつを意識させる指導は今後も引き続き行っていく。将来の集団生活や社会参加、働くことをイメージさせ、「相手の気持ちや状況を考える態度」や「自分で判断して行動できる力」を育むなど、各学部に応じた取組などステップアップしていく必要がある。</p> <p>○小学部では体験学習を通して、児童間の協力体制の育成とともに地域との交流を深め、中学部の取組へとつなぐことができた。中学部では保護者とともに具体的な進路について考える機会を持ち、高等部へ続く進路学習を効果的に始めることができた。小学部から中学部、高等部へと途切れないキャリア教育を実現するために、キャリア教育プログラムに沿った具体的な教育計画を学部内、学部間で検討、整理する必要がある。進路選択から決定に至るまでの保護者のニーズに応えることができるよう、高等部だけでなく、小学部や中学部からの情報発信(進路学習の設定を含む)を実施していくことを考えている。</p>

		<p>・高等部</p> <p>校内実習に関しては、各学年の実態や検定等の参加状況に合わせて内容や時期を設定し実施した。</p> <p>1年生では、例年実施している企業や福祉サービス事業所の見学を中心に進路学習への意欲を高め、現場体験実習の全員実施を行った。（生徒の100%が実施）</p> <p>2年生では、来年度に迫った進路選択に向け、現場体験実習の実施を進めた。また、学年懇談会や個別懇談会の場で保護者に向けて就労系障害福祉サービスの利用に関する新システムの説明を行い、学年後期より実際にアセスメントを実施した。（生徒の90%が実施）</p> <p>3年生では、年度当初より進路懇談会を行い、その結果をもとに現場実習を実施し、就労系障害福祉サービス利用に関する新システムによるアセスメントも同様に行った。（生徒の90%が実施・進路決定率100%）</p> <p><b>【達成】</b></p>	
	<p>○児童生徒のニーズに応じた年間指導計画の作成及び授業実践を行います。</p> <p>（取組状況の指標：各教科の計画作成と定期的な振り返り）</p> <p>（達成状況の指標：「概ね満足」と回答した教職員の割合 90%以上）</p>	<p>○すべての学部、すべての教科において、年間指導計画を学期毎に必要なに応じて修正を加え、計画に基づいて授業を進めることができた。</p> <p><b>【達成】</b></p>	<p>○今年度、つばさ学園キャリア教育プログラムを、軽度知的、中度知的、重度知的、重度重複、肢体の児童生徒の実態に合わせて5種類を作成することができた。次年度以降も見直しを行いながら、児童生徒のニーズに応じた授業実践を行っていくことを考えている。</p>

特別支援教育のセンター的役割を發揮できる学校づくり

<p>○地域に根ざした交流及び共同学習を計画立案し児童生徒及び保護者のニーズに応え実施します。 (取組状況の指標：居住地校交流、学校間交流の計画的な実施) (達成状況の指標：「概ね満足」以上と回答した保護者の割合 80%以上)</p>	<p>○家庭の要望や地域のニーズを聞き取り、居住地や学校間交流を実施した。また、地元農家の方や作業所とも交流を行った。居住地校交流は約95%、学校間交流は100%の実施実績。 <b>【達成】</b></p>	<p>○居住地校交流や学校間交流および地域との交流を通して、相手校及び地域との連携を図り、地域の学校や人々と活動を共にする中で相互理解を深め、児童生徒の経験及び視野を広げ、社会性を養い人間関係を豊かにすることができた。児童生徒一人ひとりのニーズを把握して、交流及び共同学習は引き続き実施していくためにも、計画立案段階からの情報交換や研修を十分に行う必要がある。</p>
<p>○校内外の児童生徒に対する支援の充実を図るとともに、それを通して教職員の専門性を高めます。 (取組状況の指標：児童生徒の障がい特性や支援方法に関する研修会の開催、関係機関と連携した療育・教育相談の実施) (達成状況の指標：「概ね満足」と回答した教職員の割合 90%以上)</p>	<p>○3つのワーキンググループを作り、各分野で研修や取組を行った。 (地域とのつながり) …関係機関との連携に関するアンケートをまとめ、これまでのケース会議の開催意図別に分類した。(マニュアル作り) …個別の教育支援計画、指導計画についてアンケートを実施し、書式、事務手続き、記入の仕方などについての改善点をまとめ、見直しを行った。(アセスメント) …夏季休業中と冬季休業中に、教育支援部内で心理検査について、また、10月には全校職員に呼びかけて発達検査について学んだ。こうした学びを通して、本校の児童生徒に適したアセスメント方法について探った。 <b>【未達成】</b></p>	<p>○研修会や療育相談、教育相談の実施など、特別支援教育のセンター的役割を教育支援部が主に担い、地域唯一の特別支援学校として、校内外からは信頼を得ている。ワーキンググループでの取組については、(地域とのつながり) …次年度以降、類似のケースの参考にできるように様式の統一化を提案し、教育支援部で整理保管することとした。(マニュアル作り) …新書式の次年度からの使用に向けて、検討を重ねている。3グループとも教育支援部内で取組を進めていくことはできたが、学校全体に向けての情報発信を十分には行えなかった。次年度は個別の教育支援計画、指導計画については年度初めに学部別(高は学年別)に、教務部と共催で研修会を開催し、周知徹底を図り、計画の活用に向けて検討を進めていく必要がある。また、ワーキンググループを絞って検討を続けていきたいと考える。</p>

地域に開かれた学校づくり	<p>○保護者同士のつながりを強める体制づくりを図ります。 (取組状況の指標：地域生活支援連絡会の開催年2回) (達成状況の指標：「概ね満足」と回答した参加者の割合 80%以上)</p>	<p>○「災害発生時の支援体制について」を話し合いのテーマにして、9/29(伊賀市)、9/30(名張市)に地域生活支援連絡会を実施した。保護者アンケートでは97%が「満足」と回答され、取り組みは評価されたといえる。 <b>【達成】</b></p>	<p>○今年度は市の危機管理担当を招いての開催となった。参加人数はあまり増加していないが、参加していただいた保護者からは好評であった。今後、実施時期や内容、広報の仕方を改善していく必要がある。他のPTA行事と日程が重ならないように8月下旬か12月上旬の開催することや、話し合いのテーマについては年度初めに決定し、早い時期に案内文書を配付するなど改善していく。</p>
	<p>○ホームページでの定期的な広報の発信を進めます。 (取組状況の指標：「つばさだより」等の定期的な更新 原則各学部月2回) (達成状況の指標：更新状況 100%)</p>	<p>○「つばさだより」の更新を毎月2回行い、各学部での児童生徒の活動の様子を写真とともに掲載して発信をした。また、中学部、高等部の修学旅行では、旅行先での活動の様子をその日の夕方にはアップして保護者には閲覧できるようにして好評であった。 <b>【達成】</b></p>	<p>○ネット社会において学校HPの役割は大きく、学校での日々の教育活動や児童生徒の様子を保護者や地域に発信する手段としてこれからも充実させて行く必要がある。しかし、ネット環境がすべての家庭に整備されていないので、これまで通りの学年通信など紙媒体での発信も大切にしていく。また、次年度からは保護者や地域からの声や感想を集約できるように、学校HPにメールアドレスを掲載して、双方向の発信ができる環境を作っていく。</p>
<p>教職員が自ら学び、生き生きと仕事ができる学校づくり</p>	<p>○教職員一人ひとりの勤務を見直し、授業の準備や自己研修に充て、子どもたちのために生き生きと仕事ができる環境を作ります。 (取組状況の指標：金曜ノー会議ディの設定と会議の効率化) (達成状況の指標：「意識して取り組めた」と回答した教職員の割合 80%以上)</p> <p>○危機管理意識の醸成と対応力の向上を図るため、計画的な訓練を実施します。 (取組状況の指標：避難訓練(全校3回、スクールバス1回)、危機管理マニュアルの見直し、職員想定訓練の開催) (達成状況の指標：「危機意識が向上した」と回答した職員の割合 80%以上)</p>	<p>○ノー会議デイと設定した金曜日の会議計画率は39%であった。他曜日に比べると少ないが、学年やグループでの臨時の会議等のため、毎日の放課後に何かの会議が行われている実態があり、教職員の多忙感は解消されていない。1月には県の支援事業により、はたらきやすい職場づくり研修会を行い、ホッとできる時間を共有した。 <b>【未達成】</b></p> <p>○計画されていた避難訓練は実施できた。(火災を想定2回、地震を想定1回、スクールバス避難1回)。年度始めに危機管理マニュアルの確認と集約は行ったが見直しまでには至っていない。 <b>【未達成】</b></p>	<p>○会議を効率良く進めようとする意識は高くなってきており、会議事項書へ時間配分を記載したり、会議資料の事前配付をするなど効率化に向けて取り組んでいる。多くの委員会が設置されているが、実態として機能していない委員会もあることから、委員会の統廃合や構成員など再構築する必要がある。</p> <p>○防災意識を保護者と連携して高めていくと同時に、より実践的な避難訓練を実施する必要がある。また、美旗地区自治会と連携をして、災害発生時の両者の動きを確認し、本校の防災機能を高めていく必要がある。また、教頭が中心となり、生徒指導部、総務部と連携した校内危機管理体制の再構築が必要である。</p>

## (2)組織の状態の評価結果

アセスメントから明らかになった状況	
強み	<ul style="list-style-type: none"><li>○学校行事への取組や日々の教育活動、生徒への支援など、チームとして取り組める雰囲気がある。</li><li>○一つの職員室に小中高等部の教職員の席があり、学部間の連携がとれる環境である。</li><li>○教育部門が知的障がい、肢体不自由の併置のため、色々な視点での教育活動が展開できる。</li><li>○小中高 12 年間の連続した教育活動の積み重ねにより、子どもの成長のつながりを見ることができる。</li><li>○小中高3つの学部の児童生徒が同一校舎で学校生活を送るため、高等部生徒が小学部児童に関わるなど、学部を超えた子ども同士の関わりを通して、児童生徒の自信や居場所づくりに貢献している。</li><li>○作業学習やたてわり班活動など、クラス担任以外にも多くの教員が児童生徒に関わることができる。</li><li>○伊賀地域唯一の特別支援学校として、地域の学校や保護者から信頼を得ている。</li></ul>
弱み	<ul style="list-style-type: none"><li>●進路指導やキャリア教育などにおいて、学部間での意識の差がある。</li><li>●学部や運営部の横の繋がりが弱く、他学部や他運営部の動きや様子が分かりにくい。</li><li>●一クラス複数担任制ではあるが、窓口担任意識が強い。</li><li>●児童生徒数の増加に伴い、開校当時の想定規模を超えた学校になり、教室の不足など施設面で飽和状態である。</li><li>●教職員の構成により毎年異動が多く、各運営部において見通しを持った継続した運営が困難である。</li></ul>

## (3)学校関係者評価委員会の実施状況

学校関係者評価委員会の実施内容等	
<実施回数> 3 回	
実施内容	<p>第1回（7月）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学校プロフィールおよび学校経営の改革方針、各学部運営部の具体的取組の説明</li><li>・今後の委員会の流れ確認</li></ul> <p>第2回（11月）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・各学部運営部の中間自己評価説明</li><li>・校内学校経営品質アセスメント委員会（職員）との対話</li></ul> <p>第3回（2月）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・各学部運営部の最終自己評価および保護者アンケート結果説明</li><li>・学校評価報告書の検討</li></ul> <p>適宜 学校訪問、授業参観</p>

#### (4) 学校関係者による評価結果

学校関係者評価から明らかになった改善課題	
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"><li>・教育内容や学校行事の中心が知的障がいの児童生徒に向いているのではないか。</li><li>・必要性や目的が明確でない取組は、児童生徒や保護者に理解や協力を得られないのではないか。</li><li>・教育内容の保護者満足度があまり高くない。施設設備だけでなく、教育内容が評価されるような学校づくりが大切である。</li><li>・12年間を見据えたキャリア教育を、保護者に丁寧に伝えていく必要がある。</li><li>・児童生徒を、組織として教職員みんなで育てるという意識が必要である。</li><li>・危機管理の観点で、地域と連携して地元自治会との協議を進めていく必要がある。</li><li>・教職員の異動が多い現状で、これまで積み上げてきたことをうまく繋いでいく体制づくりが必要である。</li><li>・地域の人々や退職教員等がゲストティーチャーとして児童生徒に関わることのできる体制づくりを進めてはどうか。</li></ul>

#### (5) 組織力向上のための取組(改善策)

次年度に向けた取組
<ul style="list-style-type: none"><li>・キャリア教育プログラムと人権教育カリキュラムと連動した、小中高一貫した魅力あるつばさの教育活動の充実。</li><li>・学部、学年、クラス間の連携を密にして、すべての教職員での児童生徒の支援体制づくり。</li><li>・地域の保幼小中高等学校および他の特別支援学校との連携と、特別支援教育の専門性の向上のための研修の実施。</li><li>・災害発生時の対応や合同避難訓練など、学校の防災機能を高めるために、美旗まちづくり協議会との連携。</li><li>・教職員が健康でやりがいを感じることでできる学校づくり。</li></ul>